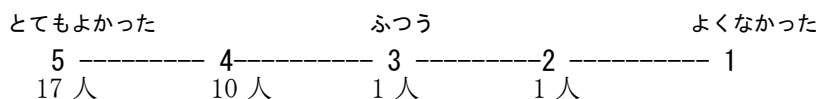


### ◎基調講演

基調講演はいかがでしたか。(評価をひとつ選んでください)

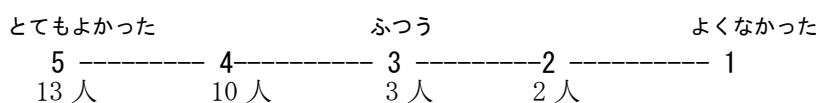


(コメント)

- ・「やさしい日本語」について、様々な気づきがあった。
- ・やさしい日本語の必要性和効果がとてもよくわかった。
- ・非常時の優しい日本語の有効性について再認識した。
- ・やさしい日本語には以前から興味があった。佐藤先生から直接お話をうかがうことができ、大変勉強になった。
- ・自身が宮城県在住で震災を体験している。思い返してみると外国人へ向けた掲示物を目にすることはあまりなく、やさしい日本語のあり方について考えさせられた。
- ・具体的な例も聞いてよかった。
- ・20年の実績を感じた。
- ・何度うかがっても大切なお話だと思う。
- ・初めて「やさしい日本語」について基本的な考え方を正しく理解することができた。コミュニティーキーパーソンとコミュニティーリーダーを混同して考えていた。
- ・やさしい日本語の必要性は理解できた。しかしながら、今のままでは神棚に鎮座でしかなく、この活用例をもっと深く入り込む必要があるのではないかと。

### ◎パネルディスカッション

パネルディスカッションはいかがでしたか。(評価をひとつ選んでください)



(コメント)

- ・グリーン・ツーリズムというものを初めて知った。様々な意見をうかがえてよかった。
- ・それぞれの立場からの事例報告で参考になった。グリーン・ツーリズムが各地に定着されることを期待している。
- ・言葉がどこでどのように使われ役立つか、改めて考えさせられた。
- ・グリーン・ツーリズムは面白い取り組みだと思った。国内の留学生がいる大学に呼びかけてみてはどうか？うちの大学ではぜひ行かせたいと思った。
- ・留学生が語学サポーターとして活動しているのはよいことだと思った。
- ・企業研修生を対象としたグリーン・ツーリズムはどうか。「研修」と言う名目の元、ほとんど日本を知らないで帰る人達に日本、青森をしってもらおうのはいと思うが…。

- ・なぜグリーン・ツーリズムがテーマなのか不思議に思っていたが、大変いい成果をあげていることがわかり、ふさわしいテーマだと感じた。
- ・教室とか日本語教育とかではないところからの視点で興味深かった。田中さんがスバラシかった。
- ・田中さんの話は Good。経験に勝るものなし。「言葉ではない、人です」。
- ・実際にグリーン・ツーリズムを受け入れている側の方の苦労話を聞くことができ良かった。話の内容もすごくおもしろく、想像しやすかった。
- ・時間をもう少し守って、ディスカッションに発展させてほしかった。
- ・在住外国人の活用について、もう少し話し合えたらよかった。
- ・1人1人の話が長い。全体的なまとめ、まとめが短すぎだと感じた。
- ・参加した人だけでなく受け入れ側の問題で、在住外国人が農業している人も多くいることの事実をもっと結びつける必要があるのではないか。それとも表に出したくないのか。検討が必要。
- ・エコ・ツーリズムの話はいらない？

(来年度、外国人のための日本語学習に関する講演や報告でお聞きになりたいテーマがあればお書きください。)

- ・ネットワークの作り方
- ・母国で中学を卒業してから来日した児童生徒への対応、受け入れについて
- ・在住外国人が困っていることを拾い上げるべき。私たちの対象は一緒に地域に暮らす外国人であり、留学生や短期遊学者ではないはずである。

## ◎分科会

1. どちらの分科会に参加なさいましたか。 分科会Ⅰ / 分科会Ⅱ
2. 内容はいかがでしたか。

	とてもよかった	ふつう	よくなかった
	5	4	3
分科会Ⅰ	9人	2人	2人
分科会Ⅱ	10人	2人	1人
会場不明	3人	1人	

(コメント)

### 分科会Ⅰ アンケートからのコメント

- ・みんながんばっていた。
- ・各地域・各立場からの話が聞くことができよかった。
- ・全く知らなかった情報ばかりで大変勉強になった。ネットワーク作り、大切ですね。
- ・行政に携わる者として、知らなければいけない事がたくさんあることを思い知った。
- ・日本語で育ち、日本語の会話はできるが学習言語を習得していない環境の児童の存在に学校の校長、教頭、また委員会が気づき、担任をサポートしてほしい。
- ・もっとディスカッションの時間があればよかった。
- ・もう少し時間がほしかった。内容はとても良かった。

・指導者としての経験が大変参考になる。しかしながら、この指導をした結果どうなった、だからこういった工夫をしたらこうなったという P-D-C-A の事例がほしかった（子どもからの目線で）。

## 分科会Ⅱ アンケートからのコメント

- ・様々なよい参考になる点がよかった。
- ・他の団体の現状がわかり、参考になった。
- ・県内の教室の様子が良くわかった。ネットワークでつながれるといいですね。
- ・山形からの日本語ボランティアの参加者や、青森県より先に多くの経験をした地域の話の伺うことができたのでよかった。
- ・外国人として、青森県だけではなく日本全国の人々が外国人のために日本語の教育支援とか精一杯工夫してくれてありがたい。
- ・青森県内で大きなネットワークを作ることはなかなか難しいことなのかと感じた。

## \*その他

1. 外国人の日本語学習支援を実施するために、どのようなネットワークが必要だと思いますか。

①同じような活動をしている教室同士のネットワーク 19人

②学習者が抱える問題を解決するための機関とのネットワーク 13人

③行政と民間機関のネットワーク 21人

- ・外国人支援ではない日本人支援の民間団体とのネットワーク
- ・これ（行政と民間機関のネットワーク）をまとめる主軸の存在が必要

④その他（具体的にお書きください）； 4人

- ・こうした活動に関わる人間全体での情報共有が大切だ。
- ・資格を持った日本語教師のネットワーク
- ・インターネット情報を主導できる機関の構築
- ・(①～③の) どれも必要だろうが、横のネットワークと縦のネットワークが必要（生活者 - 学校 - 地域企業・行政 - 支援ネット）

2. 外国人の日本語学習支援のために、行政・大学に対する要望があればお書きください。

- ・内容、現実をよく分かって欲しい。
- ・助成することをまず、ポスター等の許可から始めてほしい。
- ・在住外国人に対する目を持ってほしい。上からの日本語や交流でなく、その先にあるものをしっかり共有することが必要。
- ・住民登録担当と教育委員会のこまめな連携が必要。
- ・日本語学習支援者の研修をもっと充実してほしい。
- ・具体的支援の方法が知りたい。
- ・山形大内海先生の話より「態制」の大切さ（体制ではない）、有機的に集まることができる態制。
- ・予算化できればよいのだが…。

- ・ネットワーク作りのためには参加者の名簿があればよかった。
- ・青森での開催でよかった。
- ・またこのような場を作ってほしい。

●参加者数：50人

- ・地域の日本語学習支援者
- ・地域日本語教育の推進担当官庁である文化庁文化部国語科の日本語教育専門職員
- ・日本語支援が必要な児童・生徒を受け持つ（予定の）小学校教員
- ・文部科学省初等中等教育局国際教育課日本語指導係職員
- ・国際交流協会職員
- ・NPO職員
- ・大学生（留学生・日本人学生）
- ・青森在住外国人
- ・日本語教育学／日本語学／教育学／社会学などを専門とする研究者

●スタッフ：青森中央学院大学国際交流センター職員、非常勤講師1名、学生ボランティア3名

●広報依頼：以下の機関・団体などに広報を依頼し、本事業の周知を図った。

- ・青森中央学院大学：ウェブサイト内イベント・公開講座ページ掲載
- ・青森中央学院大学国際交流センター：フェイスブック掲載
- ・東北6県の国際交流協会：ウェブサイトに掲載
- ・弘前市市民文化スポーツ部文化スポーツ振興課文化振興係：弘前市のウェブサイトに掲載
- ・八戸市国際交流協会：会員にメール送付、八戸市教育委員会へチラシ送付
- ・三沢市政策財政部国際交流課：ウェブサイトでの広報は不可だが、三沢市国際交流教育センター内でのチラシ設置を許可
- ・青森市市民協働推進課：ウェブサイトへの掲載を依頼するも連絡なし
- ・青森県総合学校教育センター：ウェブサイトでの広報は不可だが、センター内でのチラシ設置を許可
- ・青森県総合社会教育センター：ブログに掲載
- ・岩手県立総合教育センター：ウェブサイトでの広報は不可だが、岩手県教育委員会に周知依頼
- ・青森市国際交流ボランティア協会（AIVA）
- ・グリーン・ツーリズムを実施している受け入れ農家団体
- ・過去の本学日本語事業参加者
- ・地元紙など報道機関
- ・その他、個人フェイスブックなどを通しての宣伝

●広報結果

- ・2014年11月2日付毎日新聞朝刊地方面で本会議を記事化
- ・2014年11月30日付日本経済新聞朝刊社会面で本会議に言及
- ・岩手日報からの取材

●経費

負担先	費目	
青森学術文化振興財団助成金	講師謝礼	43,750 円
	旅費	28,560 円
	賃金	7,200 円
	資料作成・通信	4,464 円
合計		83,974 円

参加無料

## 日本語学習支援ネットワーク会議 2014 in 青森



東北各地の日本語支援者が集まる「日本語学習支援ネットワーク会議」が青森県で初めて開催されます。青森では、新たに「訪れる」人たちに日本語・日本文化・地域文化をまるごと体験してもらう「グリーン・ツーリズム」が盛んに行われています。グリーン・ツーリズムからは、（一方的に）教える・教わる、あるいは地域に馴染ませる、共存するという従来の支援の在り方では見えなかった思いや必然性、可能性を見出せるのではないのでしょうか。そこで、この会議ではグリーン・ツーリズムの政策立案や企画、運営に関わる方を

はじめ、実際に外国人を受け入れている農家の方、定住外国人の方などをお招きし、グリーン・ツーリズムを通じた新しい日本語支援の形について考えます。

2014年11月1日（土）青森中央学院大学7号館1階 713講義室

10:20 開会

10:30-11:30 基調講演「外国人散住地域での言語権の保障と『やさしい日本語』

1. 17、10. 23、3. 11-外国人住民は災害下でどう情報を得ていたか

弘前大学人文学部教授 佐藤 和之氏

11:30-12:30 昼食休憩 \*1階カフェテリアを休憩場所として使っていただけます

12:30-14:00 パネルディスカッション 「グリーン・ツーリズムを通して見た外国人支援の形」

青森県農林水産部構造政策課主幹

福士 孝一氏

青森中央学院大学国際交流課課長

三浦 浩氏

アジアからの観光客誘致推進協議会会長

田中 久子氏

国際文化交流クラブ副会長

太田 ミハイ氏

司会 弘前大学国際教育センター准教授

鹿嶋 彰氏

14:10-16:10 分科会

分科会Ⅰ【713】「外国につながる子どもの学習支援」

1. 青森県内の日本語指導が必要な児童生徒の現状と課題（青森県教育庁 近藤 鉄也氏）

2. 各地からの実践報告

①八戸（みちのく国際日本語教育センター 明日山 幸子氏）

②福島（福島県国際交流協会 日下部 喜美子氏）

③山形（山形大学 内海 由美子氏）

④熊本（熊本県立大学 馬場 良二氏）

3. 「特別の教育課程」による日本語指導について（帝京大学 土屋 千尋氏）

4. 意見交換

[進行 岩手大学 松岡 洋子氏]

\* この分科会は日本学術振興会科学研究補助金（基盤研究(B)23320109「外国人散在地域の子どもの教育における保護者・学校・支援者の連携・協働モデルの構築」）の助成を受けて行われています。

分科会Ⅱ【712】「青森県の日本語学習支援グループの取り組み-困難点とその克服、これから-」

青森日本語クラブ（蝦名 修治氏）

弘前日本語クラブ（中川 佳子氏）

日本語学習支援「青い森」（金子 徳子氏） みちのく国際日本語教育センター（馬場 亜紀子氏）

[進行 青森中央学院大学 田中 真寿美]

16:15-16:25 分科会報告・閉会 【713】

[進行 青森中央学院大学 田中 真寿美]

申し込み・問い合わせ：青森中央学院大学経営法学部 田中真寿美

お名前（ご所属）・ご連絡先を明記し下記までお申込みください。

(Email) masumi-tanaka@aomoricgu.ac.jp

(Fax) 017-738-8333

(Tel) 017-728-0131（国際交流課）

●基調講演 要旨

「外国人散住地域での言語権の保障と『やさしい日本語』

1. 17、10. 23、3. 11—外国人住民は災害下でどう情報を得ていたか」 弘前大学人文学部 佐藤 和之

神戸市は外国人居住者の多い都市ですが、1995年の阪神淡路大震災（以下阪神大震災）では、災害下での外国人対応の遅れや外国語での情報の少なさが大きな社会問題となりました。その後2004年の新潟県中越地震（以下中越地震）や2011年の東日本大震災を経験することで、阪神大震災からの学びを活かした外国人への支援活動が大きく発達しました。避難情報や支援情報はそれまでに比べ、さまざまなことばを話す外国人にも伝わるようになりましたから、阪神大震災のときの課題はしだいに改善されていっていると思います。

なかでも東日本大震災での多文化共生マネージャー全国協議会の「災害時多言語支援センター」（以下タブマネ支援）や仙台市国際交流協会の「仙台市災害多言語支援センター」（以下仙台市支援）の迅速な設置と支援対応は象徴的です。タブマネ支援は10の言語で、また仙台市支援は4言語での情報伝達をしていて、その10言語の一つ、4言語の一つが「やさしい日本語」でした。日本語とは別に用意された言語ですので、この意味で「やさしい日本語」は、外国人が理解しやすい外国語の一つとしての役割を担ったこととなります。

日本語学習支援ネットワーク会議2014では、これまでの20年で日本が経験した大規模地震から学んだ重要な3つの課題を情報や表現に限定して話します。そしてそれらを解決する「やさしい日本語」の効果とその信頼性について概略します。

●場所 青森中央学院大学 〒030-0132 青森市横内字神田 12



- ・当日は大学のカフェテリアは営業していませんが、休憩場所として利用できます。
- ・徒歩圏内にコンビニがあります。